

令和 7 年 6 月 11 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K04828

研究課題名（和文）都市空間における「ゆらぎ」を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発

研究課題名（英文）Development of an interpretation method for multi-layered and fluctuating authenticity in urban spaces

研究代表者

内田 奈芳美（Uchida, Naomi）

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：10424798

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「都市空間における『ゆらぎ』を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発」として、日本型の現代都市のオーセンティシティの解釈方法を開発するものである。これまで日本の都市のオーセンティシティをどう読み解くか、ということ論点をしながら、この見えにくく曖昧だが、都市の価値を考える上で重要なキーワードについて議論し、研究分析をおこなってきた。分析を元にオーセンティシティの解釈のためのフレームワークを構築し、概念の可視化を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「都市空間における『ゆらぎ』を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発」として、日本型の現代都市のオーセンティシティの解釈方法を構築するものである。オーセンティシティは都市の「らしさ」を表現するものであり、現代のまちづくりにおいては地域価値を可視化し、言語化することが不可欠である。本研究成果としてのオーセンティシティという概念の解釈手法とそれに伴う概念の整理は、そういった点から地域の価値を共有する上で社会的意義の高いものであり、地域らしいまちづくりを考えていく上での議論に貢献するものであると考える。

研究成果の概要（英文）：This study aims to establish a method for interpreting the authenticity of modern Japanese cities by focusing on the concept of "multi-layered" and "fluctuating" authenticity in urban spaces. We explored ways to understand urban authenticity in Japan, emphasizing this elusive and ambiguous, yet essential, concept for evaluating urban value. Building on that analysis, we have developed a conceptual framework for interpreting authenticity and visualized the key components involved.

研究分野：都市計画

キーワード：オーセンティシティ まちづくり

1. 研究開始当初の背景

本研究は、定義の定まっていない概念である都市のオーセンティシティについて、解釈・事例調査・現場のまちづくりを連動させて明らかにし、日本型の現代都市のオーセンティシティの解釈方法を開発するものである。本研究では都市のオーセンティシティには既往研究から三つの複層的段階があり、その中で解釈の「ゆらぎ」があると仮定した。さらに研究の前提として、都市にはその都市空間特有の「オーセンティシティ」(真正性)がそれぞれの形で存在するとした上で、本研究課題の学術的「問い」は以下の通りであった。

第一に解釈論である。この「オーセンティシティ」という概念が都市空間を対象として何をどこまで説明できるのか、それをどのように解釈すればいいのかという「問い」である。

第二に、都市空間における応用のための方法論である。その解釈論を都市の現場と結びつけ、現実の都市空間におけるまちづくりにつなげていくにはどうしたらよいかという「問い」である。本研究ではこれらの「問い」に従った分析の結果として仮説を検証し、解釈の「ゆらぎ」を内包する都市のオーセンティシティの空間的解釈手法について考える。

2. 研究の目的

本研究は、「都市空間における『ゆらぎ』を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発」として、定義の定まっていない概念である都市のオーセンティシティについて、解釈・事例調査・現場のまちづくりを連動させて明らかにし、日本型の現代都市のオーセンティシティの解釈方法を構築するものである。ゆらぎを内包する複層的オーセンティシティという概念から、オーセンティシティの空間的解釈と適用手法を開発することを目的として研究を行う。

上述した「問い」に従って分析を行い、複層的なオーセンティシティの解釈手法の開発を目的としながら、理論と実態を組み合わせる研究を行う。

3. 研究の方法

本研究は「都市空間における『ゆらぎ』を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発」として、(1)解釈の枠組みの理論的基盤を確立させた上で、(2)都市空間におけるオーセンティシティ創出の実態解明、(3)現場のまちづくりでの分析を行い、これらを包括して(4)現代都市のオーセンティシティの解釈手法を構築する。(1)から(4)は相互にフィードバックし合う。以下、方法について説明する。

- (1) 解釈の枠組みの理論的基盤の確立：都市のオーセンティシティ概念の定義は明確に定まっていないことから、概念の複層性と「ゆらぎ」を許容した上で、都市のオーセンティシティを定義するべく、仮説の枠組みに従って、先行文献の議論を参照し、定義と解釈の理論マップを作成する。その上で、オーセンティシティの解釈論の仮説を理論的に補完・修正することで、現実の都市空間における構造的・経験的オーセンティシティの評価軸を設定する。
- (2) 都市空間における構造的オーセンティシティの解明：解釈手法を現実空間と結びつけるため、事例調査として都市空間の構造的オーセンティシティ創出の実態解明を行う。ここでは史実に基づく客観的オーセンティシティではなく、新たに創出された空間解釈としての構造的オーセンティシティを分析の対象とする。分析には(1)の評価軸を用いる
- (3) 現場でのまちづくりでの分析：現場における調査では経験的オーセンティシティの調査と分析から考える。本研究では実際のまちづくり議論に参加し、経験的オーセンティシティの解釈について聞き取り調査、及び現場でのワークショップによる認識のゆらぎについての実態調査を行う。研究対象地は、金沢市を中心として行われた。
- (4) 都市のオーセンティシティの解釈手法の構築：以上の研究方法から導き出されたことを踏まえて、都市におけるオーセンティシティの解釈とその適用のあり方を明らかにする。

4. 研究成果

以上のような研究目的と研究方法から、以下のような研究成果があった。

- (1) 解釈の枠組みの理論的基盤の確立：理論研究として建築・都市計画分野と観光学など隣接分野も含めた理論の整理を行い、分析のための基盤を形成した。内容の一部は研究成果として観光学術学会における査読論文においてまとめられており、「客観的、構築的、個人的といった異なる分類のオーセンティシティの解釈を同じ空間で許容しながら、その解釈への「目」においてはホスト/ゲストの役割が混在し、都市への長い関与の時間の中で真/偽を超えた『馴染み』

の感覚を持ち、常に『再解釈』の機会／危機を内包する」^{注1)}のが都市のオーセンティシティであると定義した。さらに、「地域の価値」を構成する要素としてのオーセンティシティとその解釈」として、書籍内の章を分担執筆したものが出版された^{注2)}。これは以前まとめた研究成果を、本研究課題での成果を踏まえて再構築したものであり、そもそもの「地域の価値」としてのオーセンティシティについて論点を提示したものである。

- (2)都市空間における構造的オーセンティシティ創出の実態解明：金沢市を中心に現地調査を行い、「構造的」オーセンティシティがどのように形成されたか分析を行った。研究の中では複数の都市の現地調査と産業構造等のデータ比較を行い、特に重点的にヒアリング調査を行う金沢市の位置づけを行うことで、都市におけるオーセンティシティの相対的な意味についての理論基盤を形成した。また、構造的オーセンティシティとしての行政による位置づけについて、景観計画という視点から学会発表として梗概をまとめた^{注3)}。この中では構造的オーセンティシティとしての景観計画の時系列によるゆらぎについて地域特性の変容の反映のありかたから論じた。
- (3)現場でのまちづくりへの分析：「オーセンティシティ」概念のまちづくり現場での都市空間への適用を考えるための事例研究として、石川県金沢市で「金沢らしさ」を考えるためのワークショップを複数回行った。その中では、中心部の特定の敷地を対象としながら、個人的な都市のオーセンティシティの解釈を超えた、他者との共有に基づく解釈のゆらぎについて分析を行った。この内容についても、建築学会で梗概として発表を行った^{注4)}。都市のオーセンティシティについて、研究代表者は定型化への疑問、創意工夫の蓄積、人による相互作用を個人的な解釈のありかたとしてあげており^{注5)}、この議論を参照しながら実際のワークショップへの参加を通じた個人的オーセンティシティの解釈の「相互作用」を分析した。さらに、(1)の理論構造の整理を分析のための基盤として用いながら、経験的オーセンティシティについてのヒアリング調査を、地域コミュニティの協力を得ながら行った。これまでにヒアリング調査を行った対象は、行政関係者、不動産オーナー、ホテル関係者、建築プロジェクト関係者など、まちづくりに関与する主体である。個人的なオーセンティシティの聞き取りを行うことで、経験的オーセンティシティの「ズレ」を明らかにすることを目的とした。本調査に関しては国際都市計画学会での発表として“Recognition of the City’s ‘Character’ Based on Existential Authenticity: The Case of Kanazawa City, Ishikawa Prefecture”としてまとめた。この中では、人々がオーセンティシティとしての「金沢らしさ」を解釈する中で、何を手がかりとして解釈するか、他者の見解との比較、実践への応用という視点から分析し、調査対象者が空間的要素以上に「人」や「生活」を特性を判断するための要素として重視し、保守的であったりする他者の解釈に対して批評的であったりすることが明らかになった^{注6)}。
- (4)都市のオーセンティシティの解釈手法の開発：これまでの調査・分析を踏まえて、オーセンティシティの解釈につながる仮説としてのフレームワークを形成し建築学会の梗概として発表した。その中では、前述したインタビューの内容を仮説的フレームワークを用いて分析し、仮説の検証を行った。このフレームワークの横軸は①関与／介入の範囲②解釈／理解の方法③判断／評価の根拠とした。結論として、第一に客観的オーセンティシティと解釈の余地のバランス、そして第二に集団としてのオーセンティシティの理解とモラルが重要であり、客観的・構造・個人のオーセンティシティにはズレがあることを理解した上で地域のオーセンティシティを判断する必要があると論じた^{注7)}。また、これまでの議論から、都市開発において何をオーセンティシティとして参照し、空間やコンテンツがデザインされたのか、新たな概念としてのオーセンティシティの「参照点」というロジックを用いて、研究対象地の金沢をこれまでとは異なる空間対象を用いて分析し、その分析の方法論について国際学会(AESOP)で発表をおこない、現地の研究者と質疑を行った^{注8)}。さらに、これまでの議論の展開として、ジェントリフィケーションとそれによって「破壊」されるであろう都市空間のオーセンティシティの関係を考察した論考を執筆し、論点を明示した^{注9)}。この中ではMeyer(2018)の「3つのP(People, Place, Practice)」を用いて、オーセンティシティのゆらぎに対する解釈のありかたを提示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内田奈芳美	4. 巻 114
2. 論文標題 都市のオーセンティシティをジェントリフィケーションの文脈で考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 奈芳美	4. 巻 Vol. 8-2
2. 論文標題 都市のオーセンティシティとは その定義と、観光関連の土地利用が示す変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 123-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 奈芳美	4. 巻 vol. 48
2. 論文標題 本質的なまちのありかたを見直す	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MINTO	6. 最初と最後の頁 28-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 SUGANO, Keisuke, UCHIDA, Naomi, SAKAMURA, Kei
2. 発表標題 “What does “Authenticity” mean in Japanese cities? A case study of Kanazawa City”
3. 学会等名 AESOP Annual Congress（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内田奈芳美、坂村圭、菅野圭祐
2. 発表標題 地域のオーセンティシティ読み取りのためのフレームワーク
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅野 圭祐 坂村 圭 内田 奈芳美
2. 発表標題 都市空間ワークショップによるオーセンティシティの個人的再解釈への影響に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂村 圭 高久 ゆう 内田 奈芳美 菅野 圭祐
2. 発表標題 地域性の変容を意識した概念としてのオーセンティシティに関する試論ー東京23区の景観計画の更新を対象としてー
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naomi UCHIDA , Kei SAKAMURA and Keisuke SUGANO
2. 発表標題 “Recognition of the City’s ‘Character’ Based on Existential Authenticity: The Case of Kanazawa City, Ishikawa Prefecture”
3. 学会等名 Asian-Pacific Planning Societies 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 除本理史・立見淳哉編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 200
3. 書名 内田奈芳美「「地域の価値」を構成する要素としてのオーセンティシティとその解釈」((分担執筆) 『「地域の価値」とは何か 理論・事例・政策』pp.35-52)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	坂村 圭 (Sakamura Kei) (30793749)	東京科学大学・環境・社会理工学院・准教授 (12608)	
研究 分担者	菅野 圭祐 (Sugano Keisuke) (80778093)	筑波大学・芸術系・助教 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------